宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース　=第３９号=
発行日　２０１１年5月2日
発行　宮城民医連

問診をとる國安裕美子さん

■今年入職された看護師の國安裕美子さんは、外来で問診をとっていると、「津波でお家を流された方、避難所から病院に通って来られている方もいて、お体の事がとても心配です。早く安心できる通常の生活環境に戻ってほしいです。」と話していました。

■外来患者の沼波房さんは、クリニックの診療が病院に移って、大変込み合っていましたが、整理番号などを配布し、対応していてそれ程不便は感じませんでした。長町病院を必要としている人のためにも、早く復興してほしいと話していました。

地域から再建の期待が高まる

長町病院附属クリニック

地震で建物が壊れ、診療ができなくなってしまった長町病院附属クリニック（所長佐藤行夫）ですが、診察場所を長町病院１階の検査室などに移し、患者さんの医療要求に応えるため、職員みんなで頑張っています。

５月２日、建物のいたる所に亀裂が走り、内壁などが崩れているクリニックに入らせて貰いました。重要な書類やカルテなどの運び出しは終わっていますが、本などは散乱したままの状態でした。

クリニックの内科・外科外来は長町病院の生理検査室、地域連携室、内視鏡室を利用しています。クリニック歯科や健診センター、訪問看護ステーションほほえみなどは、当初近くのビルの２階を利用していましたが、これから歯科は古川へ移動し古川民主病院歯科と合流、健診センターは泉病院附属一丁目クリニックへ、ほほえみは橋本ハイツで再出発します。また、通所リハは長町病院５階のリハビリ室で、規模を 1/3 程度に縮小しながら、５月から再開します。

長町病院（院長水尻強志）では、行政などと懇談を行い、地域医療を守るために、震災後の３月 17 日から、５階のリハビリ室のフロアを改造して、災害時避難病棟として 20 床を完成させました。急性期病院からの患者受け入れも開始して、職員の疲労も大変なものがありましたが、全日本民医連からの支援も頂きながら、地域での重要な役割を果たしました。

長町病院友の会では、震災直後から会員さんの安否確認を行ってきましたが、残念ながら名取方面などで、会員さん４名が亡くなられたとの事でした。組織課課長の三橋吉則さんは、安否確認で地域に出てみて、「ここに長町病院や友の会があって良かった、病院の先生や友の会にお世話になっています。」と話す人が何人もいて、長町病院が、地域で信頼を得ていることを再確認し、また、通所リハや歯科など再建への期待の大きさを感じていると話していました。

長町病院附属クリニックの建物については、取り壊すことが決まっていますが、医療構想については、地域の要望を聞きながら、そして法人、県連など今後各方面と検討しながら進めていくことになりますと、花木かよ子クリニック事務長が話してくれました。

外観では被害の状況はわからない

崩壊したクリニック内部

一日も早い復興を

長町病院１階での外来の様子

４月29日 東北新幹線全線開通！

５月１日、メーデーに向かう途中、大阪から支援に来てこの日新幹線で帰る人と会いました。永富裕之さんは、「避難所訪問の他、被災地の七ヶ浜、若林なども回りいろいろ学ぶことができました」と話していました。東京から来る時は６時間半かかったとの事ですが新幹線の開通で、仙台までの交通が便利になりました。